

児童・生徒の現状・課題

素直で教員や友達の話に耳を傾けて理解しようとする一方、自分で考え課題を見つけることが苦手。低学年では、まず学びの土台として基礎基本を定着させることが必要。まずは粘り強く学習に取り組めるように、学校として注力して手立てを打つことで、基礎学力の定着を図っていく必要がある。

学び続ける力を育むための重点目標

○児童が学習に対して、前向きに粘り強く取り組めるようにする。(粘り強さ、ポジティブ)

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	71.0	75.0	73.7
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、上手くいくように違うやり方を試したり、調べたりして粘り強く取り組んでいる。	75.0	80.0	85.6

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	83.4	85.0	86.2
②問題や課題に取り組んでも上手くいかない時には、どうすればよいのか、児童自らが方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	75.8	80.0	96.6

具体的な手だて①

児童が「楽しそう」「やってみたい」「何故かな」と感じる導入の工夫をする。

具体的な手だて②

個人で取り組む時間と、グループで共有する時間を意図的・計画的に設定し、考えたことを学習の途中で見直したり、考えを広げたりすることができるようにする。

具体的な手だて③

毎時間の学習の振り返りや、単元の中盤で、理解度や進捗状況を確認する場面を設定し、自分の学びの軌跡を振り返り、修正しながら学習できるようにする。

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・校内研究でも、児童の意欲を引き出す学習課題や学習形態、導入について手立てを打ち、普段の授業に活かせる指導法を共有する。
- ・OJT グループで日々の実践を見合い、毎週互いの実践についてフィードバックする。

総括(7月)

児童自らが課題を見出し、学び方を選ぶためには、前段階として基礎基本の定着が必須である。昨年度 MNE 調査の結果では、「粘り強さ」について児童の自己評価は高いものの、教員の認識とずれがあるのが現状である。児童の関心を引き付ける単元作り、導入の工夫について学校全体で手立てを講じることで、学習への前向きな気持ちを引き出せるように取り組み、基礎基本の確実な定着を目指す。その上で「パターンを絞って選択肢を示し児童が自分で選ぶ場面を仕組む」など児童の実態に応じて段階を追っていくとよいのではないかと。『全国学力・学習状況調査』の「分からないことやよくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」という質問では、肯定的な回答をした児童は、東京都や全国と比べて10ポイント近く少なかった。個別学習と協働的な学習場面を意図的に仕組み、学び方のバリエーションを増やすことで、児童自らが学び方を選ぶ素地を作っていく。

総括(1月)

OJT や校内研究で、個別最適な学びが有機的にはたらくているかが話題に上がり、教員が「児童が学び方を選ぶように」授業設計する意識が高まってきたことで、授業改革は推進されてきていると言える。児童は、パドレットやデジタル掲示板、学習カード等を活用した振り返りをし、友達や教員からフィードバックをもらい、軌道修正しながらより深く考えたり、考えを広げたりして、粘り強く学習している実感をもっている。一方で、児童の基礎学力の向上・定着を保証するには、一斉指導の方が適している場合もある。教員が単元や児童の実態に即して授業を組み立てる意識をしっかりとつことが必要である。